



北のまほろば

丸三証券
代表取締役社長

菊地 稔

私の出身地は、青森県つがる市（旧木造町）。地元の太宰治は『津軽』の中で、「本州の袋小路」と言い、貧しさを嘆いていますが、司馬遼太郎は『街道をゆく～北のまほろば～』において、青森を「北のまほろば」と呼び、豊かさを讃えています。「まほろば」とは、素晴らしい場所、住みやすい場所という意味の日本の古語です。

青森では、三内丸山遺跡や亀ヶ岡遺跡など数多くの縄文土器が発見されていますが、中でも大平山元遺跡の縄文土器は今から16,000年前のもので、日本で最も古い土器と言われています。たしかに、「北のまほろば」は縄文文化にとっては豊潤であったのでしょう。

『街道をゆく』を読むと、司馬遼太郎は青森の旅をとて楽しんでるのが分かります。彼は大阪出身であるにもかかわらず、弘前大学（旧制弘前高校）を受験したことがあることから、若い時から青森に憧れを抱いていたのかもしれませんが。

私は、人生の三分の一を青森で過ごしたもので、その気持ちが良い分かります。青森では、日本特有の四季を感じることができるだけでなく、季節ごとの苦難や喜びを感じることができるからです。冬は地吹雪により目の前が真っ白になるホワイトアウトが普通であり、通学さえ困難な時もあります。しかし、それを乗り越えた春には、弘前城の桜に囲まれ解放感に満ち溢れます。そして、

短い夏に向けて高揚感が一気に増し、ねぶた祭で爆発させます。秋には、八甲田山や奥入瀬溪流の紅葉に包まれながら、心が穏やかになっていきます。四

季のありがたさを心ゆくまで体験させてもらった故郷、青森に感謝の念を抱かずにはいられません。

また、日々の生活の中心は津軽弁でした。全国放送のテレビ番組では津軽弁に対して共通語の字幕が必ず付くほど、日本で最も難解な方言です。津軽弁の中に、青森の厳しい冬に耐えて生きる津軽の人々の気質を表す言葉として「じょっぱり」があります。「意地っ張り」や「頑固者」という意味ですが、良い解釈をすれば「粘り強い」、「諦めない」、「信念を貫く」ことです。学生時代に青森で生活したことにより自然と「じょっぱり」根性が身についたのかもしれませんが。

昨年来、コロナ禍により大好きな「北のまほろば」に帰省することができなくなりました。

季節ごとに帰省することができる日が一日も早く訪れることを心待ちにしています。

